が行われた(図3)。

神保健の担当職員が一堂に会し、2回

にわたって延べ81人による話し合い

脳科学の知見を生かし虐待防止 地域ぐるみで「とも育て」に挑む

少子高齢化や核家族化に伴い、社会から孤立して子育てを 行う家庭は多い。児童虐待は社会通念に反し、法律でも禁 止されているが、通告件数は増加し続けている。脳科学の 知見を元にこれらの課題解決に取り組むのは、福井大学子 どものこころの発達研究センター長の友田明美教授だ。親 子間での避けたいかかわりを指す「マルトリートメント」が 子どもの脳の発達に与える影響を明らかにし、望ましい養 育のあり方を模索してきた。地域ぐるみで安心して子育て できる「とも育て」社会の構築に挑む。

友田 明美

福井大学 子どものこころの発達研究センター センター長・教授 2018年よりRISTEX研究代表者



近年、深刻な社会課題の1つとなっ ているのが児童虐待だ。児童相談所の 相談対応件数も増加の一途で、2020 年には約19万8,000件に上った。虐待 は大きく身体的虐待、性的虐待、子ども の世話をしないネグレクト、心理的虐待 の4つに分類される(図1)。日本ではし つけと混同されがちな「手を叩く」など の軽微な体罰や「他者やきょうだいと比 較し否定する」といった行為も虐待に含 まれ、世界保健機構(WHO)では不適 切なかかわりや養育である「マルトリー トメント(マルトリ)」と定義している。

小児科医として脳科学者の見地か ら児童虐待問題に長年取り組んでき た福井大学子どものこころの発達研 究センター長の友田明美教授は、マル トリはどこの家庭にも起こりうる問題 だと指摘する。「最初からわが子を虐 待しようとする親はいません。しつけ や愛のムチといわれる軽微なマルトリ が次第に激しくなり、結果的に最悪の 事態をもたらします」。日本でも20年4 月に改正児童虐待防止法が施行され、 親からの体罰を禁止する法律ができ たことは一歩前進だと評価する。

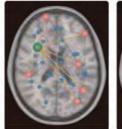
友田さんがこの分野に関わるきっか けとなったのが、救命救急センターに配 属された研修医1年目に遭遇した3歳

の男の子の虐待死だ。脳出血で運ばれ てきた男の子の全身には、親の虐待が 疑われる打撲の痕があった。医師たち の懸命な治療もむなしく、男の子の命 は助からなかったという。このように悲 惨なことは起きてほしくないとの一心 で、長年にわたり研究を続けてきた。そ の中で深刻な虐待だけでなく、軽微な マルトリであっても子どもの脳を傷つ け、成長後に心のトラブルを生む可能 性があることを明らかにしたのである。

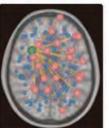
例えば、幼少期に平均8年以上の長

身体的虐待	殴る、蹴る、叩く、投げ落とす、激しく揺さぶる、やけどを負わせる、溺れさせる、 首を絞める、縄などにより一室に拘束する など
性的虐待	子どもへの性的行為、性的行為を見せる、性器を触る又は触らせる、ポルノグラフィの被写体にする など
ネグレクト	家に閉じ込める、食事を与えない、ひどく不潔にする、自動車の中に放置する、 重い病気になっても病院に連れて行かない など
心理的虐待	言葉による脅し、無視、きょうだい間での差別的扱い、子どもの目の前で家族に対して暴力をふるう(ドメスティック・バイオレンス:DV)、きょうだいに虐待行為を行うなど

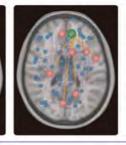
図1 厚生労働省が定める虐待の定義



成人脳



前島部 (痛み・不快・恐怖)



幼少期マルトリ環境の

成人脳機能

(意思決定・共感)

前帯状回

一般の人の脳と比べて 「意思決定・共感」の配線 より好き嫌いや快不快 る[扁桃体|が過剰に活動 な脳」になり、攻撃的な行 動を取ってしまう(Nat Rev Neurosci.2016)。

図2 幼少期にマルトリ

環境にあった人の脳は、

開催に尽力したのは、領域アドバイ ザーを務める川崎市健康福祉局総合 リハビリテーション推進センターの竹 島正所長だ。「研究の成果を生かして、 マルトリを防ぐ取り組みを社会に実装 していくためには、まず現場の関係者 が寄り集まって話し合うことが大事だ という思いがありました」と語る。

はじめに公衆衛生の専門家で竹島 さんの大学の先輩でもあった、大阪府 こころの健康総合センターの笹井康 典所長(当時)に相談した。その後、笹 井氏の後任で精神科医である籠本孝 雄所長に引き継がれ、今日まで活動が 続いている。「お二人とも府庁内のネッ トワークとコーディネート力に長けて いました。どこにどんな職員がいるか、 活動ぶりまで熟知しておられて、声を かけてくださいました」と竹島さんは 振り返る。友田さんも「私は研究や医 療の世界での活動が中心で、行政の現 場の方々とつながりはありませんでし た。実務に向き合う方々と話し合いの 場を持つことができ、大変ありがた かったです」と感謝を口にする。

この意見交換会では、多職種連携を 進める上での大きな課題が浮き彫りに なった。専門分野によって、児童虐待に 関わる用語や概念がバラバラだった。 例えば『虐待』という言葉も、児童の一 時保護や親権停止が絡む児童福祉で は、かなり深刻なケースを虐待と呼ぶ のに対し、予防的観点を重視する母子 保健では、もっと軽微なマルトリも虐 待に近いものと理解されている。「はじ めはお互いに話がかみ合わない状況 でしたが、現場の虐待防止への強い思

期間にわたって親から体罰を受けた人 参画してきた。脳科学の知見を社会に の脳は、体罰を受けていない人の脳と 伝えながら[マルトリ]への理解促進を 比べて、気分や感情・行動のコントロー 図り、地域全体で子育てを助けながら 児童虐待を防止していく社会づくりを ルに関わる前頭前野の一部が委縮して いた。この部分が損傷すると、うつ病に 目指してきた。中でも「養育者支援」の 重要性を訴え続けている。 マルトリが生じる背景には、経済的 困難、家庭内不和、養育者の心の問 題、子どもの障害などの要因が複雑に

なったり、自己肯定感が低くなったり、 薬物に手を染めたりといったことにつ ながりやすくなる。また身体的な暴力は ないが、存在を否定されたり怒鳴られ 絡み合っているからだ。「虐待する親を たりする[言葉の暴力]を受けてきた人 の脳でも、聴覚野に変形が見られた。こ 悪者扱いして、虐待された子どもを保 護すれば終わり、ではありません。子育 の部位が傷つけられると、言葉の理解 て困難な家庭が直面する課題にも対 力が低下したり、小さな音や他人の会 話が聞こえにくくなったりする。 峙し、孤立しないよう、連携して支援す る仕組みが必要なのです」と語る。

つまりマルトリ環境は「感情のコント ロールが苦手な脳」を形成してしまうの だ(図2)。「親はよかれと思って愛のムチ を施すのでしょうが、子どもに望ましい 影響を与えることは1つもないことが明 らかになりました」と友田さん。マルトリ のリスクに早期に気づくことが子どもの 虐待を減らすために不可欠であり、予防 的アプローチが重要であることを脳科 学の見地から発信し続けている。

社会実装への大きな一歩 現場職員との意見交換会

友田さんは自身の研究結果を社会 課題の解決に役立てるため、15年から RISTEXの「養育者支援によって子ども の虐待を低減するシステムの構築」に

しかし行政では異なる職種の連携は 前例が少なく、容易なものではなかっ た。転機となったのは、17年7月に大 阪府こころの健康総合センターで開 催された「児童虐待の防止と家族支援

の社会実装に関する意見交換会」だ。 友田さんたち福井大学の研究チーム と、大阪府内の母子保健、児童福祉、精



図3 児童虐待の防止と家族支援の社会実装に関する意見交換会の様子

8 JSTnews September 2021



いは同じです。次第に互いの課題や状 況を理解し、どうすれば課題を解決で きるのか、話し合えるようになっていき ました」と友田さんは語る。

大阪府の2中核市と連携 対象別に啓発資材を作成

地域が連携して養育者支援にあた るために、職種の垣根を超えた共通概 念として生まれたキーワードが、「マル トリ予防」と地域が連携して協働で子 育てをする「とも育て」だ。母子保健、 児童福祉、精神保健を一体的に所管し ている中核市である大阪府豊中市と 枚方市の現場職員の協力を得て、実際 にどのようにしてマルトリ予防に取り 組んでいくべきかが話し合われた。

マルトリの早期発見や養育者支援に つなげるために、「マルトリ予防 | や [と も育て」の考え方を説明した支援者向 け研修資材や一般市民向け啓発資材 を作ることが決まった。コロナ禍に見舞 われる前のことで、友田さんら福井大 学チームが何度も大阪に足を運び、資 材の協働開発が進められたのである。

そうして完成した資材の1つが枚方市 と共同制作した「マルトリに対応する支 援者のためのガイドブック」だ(図4左)。 脳科学の知見も踏まえたマルトリに関 する正しい知識を、わかりやすく解説し ている。また、マルトリの疑われる家庭 への接し方のポイントを、具体的にアド バイスしている点も特徴となっている。

友田さんは狙いをこう説明する。「私 にも苦い経験がありますが、子育て困 難家庭は『自分たちが責められている』 と感じると心を閉ざし、公的支援から遠 ざかってしまいます。マルトリは子育て 困難家庭からのSOSだと受け止め、彼 らに寄り添う姿勢が大切なのです」。

子どもの器とこころがすくすく育つ マルトリに対応する 支援者のための ガイドブック マルトリにより 子どもの報は簡単に低 つき、将来の心色の報道 や片品に影響することが あります。 通句なかかり りは高ついた事を別様さ の 相井大学 RISTEX OO

適待だけでなく、大人から子どもに対する Bote feeriers | Martinalis E室の暴力 〇 ichs_Autory 子どもに食事や教育を

また、豊中市と作成した11種類の市

民向けチラシは、各テーマに沿った内

容がイラストとともに1枚にまとめら

れ、誰にでも読みやすく作られている

(図4右)。これらの資材は、現在、一般

社団法人日本家族計画協会(JFPA)の

「マルトリ予防WEBサイト」に掲載され

ており、会員登録すれば誰でも無料で

ダウンロードできる。20年11月のサ

イトオープンからすでに800件以上の

友田さんのもとには、利用者からの

活用報告が続々と届いている。生徒が

心理的マルトリを受けていることに気

づいたある中学校教師からは、研修資

材からマルトリの重大性を理解し、児

童家庭課の担当者と連携してその生

徒を安全な環境に保護することができ

また児童福祉の若い担当者からは、

イラスト入りのチラシを養育者に見せ

ながらマルトリが脳を傷つけることを

説明し、寄り添いながら早期に対処で

きているとの声もあった。「こうした声

を聞くと、プロジェクトに関わった1人

として嬉しいですね。さまざまな分野

の支援者の方々に、主体的に研修会な

どを開いていただき、資材を使ってマ

ルトリ予防の取り組みを広げていけれ

ばと願っています」と友田さんは話す。

今後は、JFPAと連携しながら、全国へ

の普及を図っていく考えだ。

利用があるという。

たと報告があった。

図4 RISTEXの事業の一環で作成した支援者向けのガイドブック(左)と市民向けチラシ(右)

プロジェクトで再認識 予防的アプローチの意義

このプロジェクトを見守ってきた竹 島さんは「自治体と研究、RISTEXのプ ロジェクトが効果的に連携できるとい う好事例」と高く評価する。また、「多く の部署が連携し『予防』に踏み込めた のは大きな一歩です。リスクは誰にで もあるという前提に立ち、予防中心で 考えた方が、社会として適切な対処が できるはずです」と指摘する。

これについては、友田さんも同意 見だ。「何度も虐待を繰り返すハイリ スクな家庭に対するアプローチも大 事ですが、虐待が起きてからでは、被 害者や家族の心のケアや社会への適 応、再発防止に多大なコストがかかり ます。最悪な事態に陥る前に適切に 介入して、未然に防止することが、私 たちのプロジェクトの目標なのです」 (図5)。

完璧な親などいないし、どんな家庭 にもマルトリのリスクはある。そしてコ ロナ禍の今、虐待件数の増加が示すよ うに、そのリスクは確実に高まってい る。竹島さんによれば、20年の第1回

地域社会 市民啓発資材 の配布 マルトリに 気づき」 最終受益者 「理解」し、 国民 「ほめ育て」の 社会へ 数材開発等の 教材を活用した 学習 研修会·勉強会、 授業·講義、自己学習 教材の提供 会員登録(無料) まるとり 教材のアップデート マルトリ予防WEBサイト

図5 マルトリ予防モデルの概要 (https://www.jst.go.jp/ristex/pp/project/h30_1.html)

目の緊急事態宣言時に行った「川崎市 こころの健康に関する意識調査」では、 市民の心の健康状態の悪化が見られ たという(https://www.city.kawasaki. jp/350/page/0000100851.html)。

中でも、周りとのつながりの弱い人 たちがより悪化していた。「このコロナ 禍において、友田さんのプロジェクト をはじめ、RISTEXの「安全な暮らしを つくる新しい公/私空間の構築』領域 でのプロジェクトから導き出された普

遍性のある資源や情報、技術をどう私
 たちが活用できるかが試されていると 思います」と竹島さんは話す。

問題に直面したら、1人で抱え込ま ずに周りに助けを求める。困っている 人がいたら、声をかけ、手を差し伸べ る。誰もが安全に暮らせる地域共生の 社会づくりは、私たち1人1人の「ちょっ としたお節介」と、「周囲に助けを求め る勇気」、そしてそれを促す仕組みづく りにかかっている。

マルトリ予防WEBサイト

このサイトでは、マルトリ予防のための情報も提供しています。 また、「資料箱」の資材は会員登録いただいた方はどなたでも 無料で利用できます。ぜひ研修会などでもご活用ください。

https://marutori.jp/





こんなこと、ありませんか?

これは全てマルトリです。ポイントを参考にしながら、子どもとの関係を見直してみましょう。

いうことを聞かないので かるくつねる



どんなに軽くつねる・たたく でも子どもの心は傷ついてし まいます。

が出そうになったら6秒数え て、大人が怒りを鎮めましょう。

他のきょうだいと比べる



やる気をださせるために

ほかの人と比べることは、「あ なたはダメな子」と言っている ことと同じです。



人はそれぞれ個性があります。子 ざもと向き合う時間をとって、い いところを見つけていきましょう。

長時間スマートフォンを 見せておく



親が忙しいときは便利ですが、大人との 貴重なコミュニケーションの時間が減 り、友達と上手く関われない、集団行動 がとれないことにつながりやすいです。

うしても手が離せないとき約束して 見せる。「1日1時間まで」など、事前に 約束して見せるようにしましょう。

マルトリ予防サイトで提供している情報の一例

10 JSTnews September 2021